

事前評価報告書

研究課題名：材料信頼性向上と構造材料データシートの高度化に関する研究

研究責任者：木村一弘 材料基盤情報ステーションクリープ研究グループ グループリーダー

評価委員会日時：平成16年6月16日13時45分—14時45分

評価委員会委員長及び委員名：

野中 勇 石川島播磨重工業（株）基盤技術研究所 部長 （委員長）

伊藤義康 （株）東芝 電力・社会システム技術開発センター 主幹

松原英一郎 東北大学金属材料研究所 教授

鈴木正実 トヨタ自動車車両技術本部 室長

福富洋志 横浜国立大学大学院工学研究院 教授

記入年月日：

平成16年7月5日

評価の観点	評 価 結 果			
<p>[課題の設定] 新規性・独創性、科学的・技術的重要性、社会的・経済的重要性、国家・社会・産業界の要請、新規産業分野、緊急性、波及効果など</p>	<p>構造材料データシートに関しては、これまでに多くの貴重なデータが取得されており、その価値は国内外で高く評価されている。産業界など社会的貢献度は多大であることは言うまでもない。その貴重なデータについて詳細な解析（特性発現機構などを解明）を行うことはデータシートの価値をさらに高めるのみならず、材料研究の分野にも貢献することが期待される。その意味で、本研究の目的は合理的かつ明確であると同時に、研究成果の波及効果も大きいことが期待される。</p>			
<p>[課題への取り組み方法] 研究手法・実験方法の新規性・独創性、精密性・緻密さ等や、推進・運営体制の観点から研究責任者の裁量、国際的展開、学協会との連携・協力など</p>	<p>研究体制は4種類のデータシートに対応して4グループの個別の活動になっている。「疲労」「クリープ」は歴史が長く、「腐食」「宇宙関連材料」は発足間もないなど、データシートとしては成熟度が違うので、4つの研究テーマについての一貫性が難しいと思われるが、基本的に特性発現メカニズムの解明という切り口で整合性がとれている。</p> <p>また、本研究活動としては学協会との連携や海外機関との情報交換などが重要だと思われるが、「クリープ」に関しては鉄鋼協会の委員会の場で外部評価を受けるとのこと、他のテーマも同様なアプローチを行っていただきたい。</p>			
<p>[研究計画] 新規性、独創性、妥当性、年次計画、予算規模、人員配置、購入設備計画、費用対効果、当該大規模プロジェクトが実施されなかった場合の損失など</p>	<p>人員配置は適当であるが、研究費の内訳が不明であったため確認した結果、内訳表が提出された。データシート作成のための固定費と本研究費は明確に分類されている。予算規模は4テーマ合計にしては少ないと思われる。その意味でも研究の達成目標を定量的に表し、研究費用との相当性を明らかにしておく必要があると思われる。</p> <p>本研究は基本的にデータシートの付加価値を高めるもので費用効果は大きいことが期待される。</p>			
<p>[総合評価]</p>	<p>A：本研究は社会的貢献度および経済効果が大きいことが期待される。</p>			
<p>右記のS, A, B, Fに○を付けてください。</p>	<p>S：新規課題として特に優れており、そのまま実行すべきである。</p>	<p>A：新規課題として優れており、実行すべきである。</p>	<p>B：新規課題として一部修正して、実行すべきである。</p>	<p>F：新規課題として不適切である。</p>